

編集後記

前回編集後記を書いてから、早くも1年以上が経過し、編集委員会のメンバーの先生方を一巡し、再び自分の順番が廻って来ました。

前回の自分の編集後記を読み返すと、“次回どのような編集後記を書くことになるか、予測は難しいけれども楽しみである”と書いてあります。実際1年と言う期間は短くもあれば長くもあり、大いに变化した部分がありました。

当学会雑誌としては、デジタル化が何よりの革新的変化です。デジタル化にあたっては、どの会社のシステムを採用するかについての検討から始まって、学会抄録や論文の細かい掲載の仕方まで、かなり試行錯誤的な部分がありました。自分は恥ずかしながら、長い複雑な文章を集中して読むには、プリントアウトをした紙媒体を用いています。しかしながら、アクセスする機器さえあればどこにでも携帯でき、膨大なデータの中から迅速に検索をして、時間ロスや労力なく内容を見ることができる利便性は何物にも代えられません。さらにデジタル化の効果はそこだけにはとどまりません。現在編集委員会では、デジタル媒体ならではの企画について、より当学会雑誌の魅力を増すように、より教育的効果も高めるように、様々な検討を行っています。今後のさらなる発展について期待をさせていただきたいと思います。

編集委員個人としては、編集作業に従事を始めたばかりの去年と比較し、多少なりとも先輩の諸先生方から学術雑誌の編集作業について学べた、大変有意義な1年でありました。

次の編集後記を書くときには、当学会雑誌の編集のより大きな力になれるよう、編集委員として全力を尽くしますので、今後とも宜しく願いいたします。

(高橋 健)